

第一回委員会意見の整理

第 1 回委員会で得られたご意見を、第 1 回委員会の資料 7 の論点ごとに整理した。

1 防護柵における景観的配慮のあり方

論点 1：防護柵において考えるべき景観的配慮とは何か
 （防護柵が有すべき機能と美しさをバランスさせてどのようにデザインするか）

《委員会意見》

意見 1：基本的には機能を重視し、装飾的な要素は抑えた方がよいと思う。

2 防護柵の副次的機能(視線誘導等)と景観的配慮とのバランス(色彩と透過性)

論点 2：防護柵の機能を担保しつつ、どのように景観に配慮するか

- ・ 防護柵が目立つ 安全性が高い(機能面)
- ・ 防護柵が目立たない 景観への馴染みがよい(景観面)

《委員会意見》

意見 2：照明ポールやポラード等を、ブラウン系の色彩で統一している例を多く見掛けるが、微妙に色がずれている。ブラウン系の色彩はよく使われているので、スタンダードカラーとして数値で色を決めておくことも良いのではないか。

意見 3：色彩は背景との関係が大切。樹木が多いところでは明度を下げた方がなじみやすいし、海辺のような空の広がりがあるところでは高明度色の方がなじみやすい。近年東京のような都市の建築物の明度は低めになっているので、そのような環境では白いガードレールは目立ちすぎるし、ブラウンでは機能的にも問題があるし、また重苦しく見える。この場合少し明るめのグレイベージュのような中間的な色彩も検討すべきであろう。またガードレールは支柱とビームが、こげ茶とベージュ、あるいはベージュと白といったツートーンの塗り分けも考えられる。

意見 4：目立たせる、目立たせないの整理した上で、景観的に目立たせないとしたらどういう配慮方法があるか、色で目立たせないのは場所によって違ってくると思うが、構造的な配慮と色彩的な配慮の観点から整理する必要がある。

意見 5：視線誘導により事故を未然に防ぐという話と、事故が起こった場合に逸脱

せず戻るから安全だというのをどこまで保証するのかという議論だと思う。落ちたら絶対死んでしまう崖の上のような所と、比較的まっすぐでそんなに目立たなくていいよと言う場所のように極端なところはわかりやすいが、その中間の場合が少し悩ましい。

意見6：柵にリレーフを付ける等のデザインは、絶対だめとは言わないが、景観的配慮でも防護柵の機能でも何でもない。

意見7：周辺景観との調和や見栄えといった観点だけでなく、安心感が得られるかという観点も重要。人が見た情緒的な面も重要である。

意見8：ドライバーの目線の高さに関する透過性の配慮や、目の高さを意識した防護柵の高さについても、少しガイドラインで触れていい。

3 防護柵の連続性・統一性

論点3：どのような単位で防護柵に連続性を持たせるか / 統一を図っていくか

《委員会意見》

意見9：日本の道路空間は情報量が多すぎると思う。防護柵もさまざまなものがあり、どのように使い分けているのかがよく分からない。基本的にはシンプルな形態とし統一性を強調することがよい。

4 考慮すべき視点に応じた景観的配慮の考え方(内部景観と外部景観)

論点4：考慮すべき視点によって、どのような景観的配慮を行うか

《委員会意見》

意見10：人がつかんだり触ったりという機能も頭の隅に入れてデザインを考えていただくといい。

意見11：手すりはそのような配慮が必要だということをどこかに書き込んでおくことで良いと思う。

5 地域に応じた景観的配慮の考え方

論点5：地域ごとに、どのような景観的配慮を行うか

《委員会意見》

意見12：すべての地域を対象として、それぞれの地域でどの程度の景観的配慮をすれば良いか、という書き方がよい。

6 防護柵の設置にあたって特に景観を考慮すべき地域

論点 6 : どのような場所において、特に景観に配慮すべきか
論点 7 : 整備の優先度の考え方はどうあるべきか

《委員会意見》

意見13 : ガイドラインでは、景観に配慮した防護柵を取り入れる所と、従来のガードレールを使う所の使い分けをしていただきたい。また、ランニングコストについて一言加えていただきたい。

7 防護柵の設置の適切性・必要性

論点 8 : 防護柵の代替措置にはどのようなものがあるか /
どのような場合に代替措置を考えるべきか

《委員会意見》

意見14 : 衝突車両の誘導が必要な場所なのか、あるいはきっちり止めることが求められる場所なのかを考慮して使い分けることが必要である。

意見15 : 設置場所の設置基準と代替手段をたくさん用意して、無くても良い場所をはっきりさせた方が良い。

意見16 : あまり危険ではない場所に、防護柵が設置されている場合もある。「防護柵の設置の適切性・必要性」については、ガイドラインにもっと内容を書き込んだ方が良い。

8 地域の意見の反映方法

論点 9 : どのような方法で地域意見を反映するか
・ どのような事を聞くのか
・ どのように聞くのか
・ 聞いてからどうするのか

《委員会意見》

意見17 : 地元の意見は、安全性と景観の両方を踏まえた形で片側に偏重しない意見の取り方が必要。

9 防護柵設置後の評価手法

論点10：設置を行った防護柵の評価手法としては、どのような手法があるか

特に意見なし

その他

経済性・コストに関する意見

意見18：防護柵は設置延長が長いので、壊れた場合に更新が容易であること、ランニングコストが安いことが重要である。

意見19：防護柵には、都市景観を阻害せずにコストの安いものが望まれる。

意見20：経済性についても、ガイドラインにおいて言及すべき事項であると思う。

意見21：コストには、イニシャルコストとライフサイクルコストがあるので、この点についても、ガイドラインにおいて記述して欲しい。

メンテナンスに関わる意見

意見22：周辺景観との調和や見栄えといった観点だけでなく、安心感が得られるかという観点も重要で、車の衝突跡がそのまま放置されているのは良い景観ではない。人が見た情緒的な面も重要である。また、錆びや老朽化によって景観は低下していくという観点も必要だと思う。

意見23：ガイドラインに、事故跡の早急改修の必要を含めたメンテナンスの話を入れた方が良い。

意見24：メンテナンスフリーという話、直せることに加えて直すときの簡単さ、部分的に直せる更新の自由度ということもガイドラインの維持管理の中に書くと良いと思う。

ガイドライン全体に関わる意見

意見25：良くない事例をガイドラインに示すことは良いことだと思う。

意見26：防護柵が担っている機能を、例えば道路線形の改良や並木道にするなどで代替できないかという観点を最初に示し、やむをえない場合にはこうするといった構成にしてはどうか。

意見27：「全ての道路管理者に読んでもらえること」「防護柵だけでなく道路景観全体が向上すること」を目指したガイドラインとして欲しい。

その他意見

意見28：降雪期にスノーポールが設置でき、ポールを設置しない時期においても景観的に違和感がないものが望まれている。雪圧に耐える機能面や構造的なものも考えていただきたい。

意見29：雪については、雪と防護柵プラス景観ということで難しい面はあるが、ある程度考えてゆく必要がある。

意見30：このガイドラインは新たな製品の開発するためのものではないと思うが、具体的な防護柵のデザインを考える場合は、標準設計の数は余り多くない

方が良い。そうすればコストも下がる。防護柵の基礎の部分が目立つ場合もあるので基礎部分を組み込んだシステムデザインをやってほしい。

意見31：他のポールとのシステム設計という話は、現状そういう製品は多分ないので、どの辺にどう書くか書き方が非常に微妙。基礎の話は触れておいていいかもしれない。

意見32：ガイドラインでは、材料の特徴を踏まえた形状等を考える、ということも加えてほしい。